静岡新聞

平成３０年(2018年)８月２９日（水曜日）

駅前再開発で事業協定

三島市やJVなど3者 25年の完成目指す

三島駅南口東街区の再開発事業で、三島市、地権者らで構成する再開発準備組合、アスマチ三島プロジェクト共同企業体（JV）の3者は28日、事業協力協定を締結した。2021年度の着工、25年中の完成を目指す。事業は30年来の市の重要課題で、大きな節目を迎えた。

当該地1・3㌶を広域健康医療拠点に整備する計画で、マンションや商業棟、駐車場棟を建設する。夫婦の共働き、高齢者の自立した生活を後押しするため、子育て、健康増進などの機能も複合的に備える。総事業費222億円、うち市の負担は61億円。

協定書を交わす豊岡市長（右）や磯貝社長（左）ら＝三島市役所

市役所で行われた協定締結式で豊岡武士市長は「いよいよスタート。三島の発展と伊豆半島の活性化につなげたい」と述べた。施設計画の詳細は19年度中の都市計画決定までに市民から意見を取り入れながら決める意向も強調した。

JVの代表企業であるミサワホーム(東京)の磯貝匡志社長は事業参入の理由について「首都圏に近接する三島のポテンシャルは極めて高い」と指摘。事業に懸ける意気込みでは、日本全体が直面する少子高齢化と人口減少を挙げ、「コンパクトなまちづくりによって解決し、次の50年につなげるモデルにしたい」と語った。再開発準備組合の井上裕幸理事長も同席した。

東街区の再開発構想は1987年ごろに持ち上がったが、景気低迷や東日本大震災の影響で長く塩漬け状態だった。駅前開発では東街区とロータリーを挟んだ西街区でも東急ホテルが建設中で、にぎわい拠点づくりが進行している。

（三島支局・河村英之）

是非 主要争点か

市長選に新人2氏見直し主張

三島市や共同企業体（JV）など3者が事業協力協定を締結した三島駅前再開発を巡っては、計画見直しを主張する新人2氏が12月の市長選に出馬表明している。豊岡武士市長(75)も立候補する予定で、事業の是非が主要争点となる可能性がある。

2氏は県議の宮沢正美氏(69)と会社経営の石井真人氏(39)。いずれも財政負担の重さや市民合意の不十分さを指摘している。28日はこの2氏と同様に見直しを訴える市民団体の約20人が市役所前でシュプレヒコールを上げる一幕もあった。

一方、市当局は協定締結後に行った記者向けの事業説明で、「税収増により費用負担は30年で回収可能」「市の財政力指数は約87の全国の市で上位100位辺り」などとし、一部市民が指摘する財政破綻には陥らないとする趣旨の解説を行った。